

100 世界遺産の旅 (122)

憧れのハワイアン

2020年に始まったコロナ禍で、多くの人々が、人生の軌道修正を余儀なくさせられたと思う。私もその1人で、ライフワーク「100 世界遺産の旅」の海外旅行は、75歳までと願っていたが頓挫し、国内旅行へ、しかも近場に切り替えざるを得なかった。



「神戸まつり」花舞台、東遊園地、2011年5月

もう1つのライフワーク「ハワイアンバンドとボランティア活動」については絶望的である。バンドではハワイアンソングの歌が欠かせないが、3密回避のため練習が全く出来ない。また、老々感染を避けるため、ボランティア先の介護施設では、外部との接触を完全に遮断し、打ち合わせすら出来ない。

還暦を迎えて、我が人生にやり残しは無いかと、つらつらと考えるうちに「音楽とボランティア」に辿り着いた。そこで神戸市シルバーカレッジに入学し、奮起一番とばかりハワイアンクラブの門をたたいた。まさに、還暦を迎えて「60の手習い」という未知の世界に身をゆだねた。



神戸市主催「いきいきシニアライフ」2015年9月

入部して驚いた事は、セミプロ級ギタリスト、ほぼ絶対音感の持ち主、CDを聞いて曲を採譜する人など、音楽に精通した人達との出会いであった。初心者の私は、バンドボーイの心づもりで、ボーカル、ウクレレ、エレキベースギターの習得に取り組んだ。

特に苦労したのはボーカルで、簡単な歌でもバンドにあわせて、歌い出し、発声、音程、リズムを楽譜通りに歌うことは至難の業であった。

楽器、歌ともに芸事のインプットは多難だったが、次第にアウトプットができる幸せを感じるようになった。さらに、歌った後、ボランティア先のお客さんより、「上手い！」という声を、時折、頂いたのが励みとなり、日々の練習にも熱が入った。



「さくらホーム」ボランティア、神戸、2011年11月

兵庫県民ボランティア助成金の30,000円/団体を受給するには、年間12回のボランティア出演が条件だったので、私の出演数も優に100回を超えた。

平日、神戸市内で、生バンドとフラダンスのコラボ出演ができるグループは、極めて限られていたので、神戸市からもイベント出演の依頼が多々あった。

「いきいきシニアライフ」、「水の科学博物館」、「愛の輪ふれあいコンサート」などで、また「神戸まつり」では、メインの花舞台に出場させてもらった。

神戸市社会福祉協議会 福祉の情報誌

きずな KOBÉ

第4号
TAKE FREE
July 2013



神戸市情報誌「きずな KOBÉ」表紙、2013年7月

ハワイアンに飛び込んだのが60歳、それから11年間、歌や楽器の技術習得に精進したが、我が「お気楽人生」において厳しい時期であった。その一方、充実したボランティア活動の日々に感謝している。

もう少し若いときにやっておけば良かったと思うが、そうはいかない。若い時は、仕事や家庭の事情もあり、アウトドア活動の時間も必要で、気楽ながらも、忙しく生きていたのが実情であった。

ただ、「老人呆け易く、芸成り難し」は、芸事に挑戦した11年間の率直な感想である。